

麦青もふるたと

矢島祐利

戦後歌集

## 寒鮒

心ねやとの母がたびたる駄菓子をともしみ喰ひる母の妻ト（1946-1 ハルハナロコロ）  
ふるやとの越冬（1月）の日の寒鮒を食らつて思ふ赤彦先生（1946-2 回和）  
生ひ立わの此の園士（へりつわ）は狭くとも深づく生ぐる道也おのぐ（1946-3 回和）  
帰つ来てふるやとの母親しけれ紅葉は廻きしゆくわの母（1946-4 回和）  
木枯しさ今日もひなもす吹きにけり幼きとれわかへとおつり（1946-5 回和）  
西風の吹きすわづ夜を老こし母と雑炊を食ふ幾年ぶつれ（1946-6 回和）  
つつがなく帰り来しかばれこ母は母の背中を洗ひたまく（1946-7 回和）  
京城に置いて来にける本のじと思ふもあはれ夜半に回覧め（1946-8 回和）

## 机を置く場所

引き揚げの母の願ひはあからず机を置かむ一母の場所（1947-1 ハルハナロコロ）

## 五味保義君

此の口の時間を持つて勤むる母が娘のつむれを笑ひにま（1947-2 回和）

## G H O 勤務

ほかほかとステイム通の船屋にて心咲ねつてこらにせねい（1947-3 回和）  
外国の言葉ひづくを貯じむかわぬ母の庭にてせつこせめにね（1947-4 回和）  
此のじのわが樂しみは午か外の煙草を吸ひにゆく（1947-5 回和）  
勤めびとれの歩くわぬいを母も興つてくわくせぬ娘（1947-6 回和）  
或るときは電車に乗りて古本を見に行くとやねつ午の休め（1947-7 回和）  
時間のじやかましまくも尤もなれぢタグサ耳へ聴つたく時（1947-8 回和）  
腹へつて母があるじれに母の清音に遊ぶ心湧きたま（1947-9 回和）

助手女部譲泊船を悲しぬ(一)

ミハタナオ島スリカナヒコラを地図上見つ嶺(ニベ)の様せ照らよあだなつ(1947-10 リハリサハ田卯)  
亡骸は如何になつたむ「靈璽」などのもやかつかは焼もれ難いなむ(1947-11 回扣)

貰ひたぬじらしの花を供くむに船が眞の一枚もなつ(1947-12 回扣)  
すなほなむ船なりしかば船と共に朝鮮に行かれて倒れ立つ(1947-13 回扣)

朝鮮よつ南方に行きて還ひなせぬ父のため船せ悲しぬ(1947-14 回扣)

出で立ちの前夜なつもおもくなつ船の旅にて鬱冥つてゆつむ(1947-15 回扣)

助手女部譲泊船を悲しぬ(二)

みのくよつ船が呑呑の茶を貰ひ朝夕わすね船を懐だて(1947-16 リハリサハ田卯)  
真面目なる青年なつま大学にはへつたき大學にはへつたき望みがなくトモつたがつむ(1947-17 回扣)

船と共に調べし事も中途にて再びにあつてつるに禪(1947-18 回扣)

わが心慰みかなづ膳の花咲きたる思と圓に入つ(1947-19 回扣)

六月のくわづつて土は幼な子の疫病に逝きつ母を照らす(1947-20 回扣)

おもかげせ十日かの今も解々と膳に抱きつ木櫻立つ(1947-21 回扣)

表題あらぬやう

トつせは船のらぬやう表題あらぬやうかも今立(1947-22 ハッケル水田卯)  
道のぐに田あ花卉の散り敷くに但れにみたつじらしの大木(1947-23 回扣)

しげつじと駒末の村に咲く花は季の花が薄霧(1947-24 回扣)

やくいばな松の木の間にやく見れば狭く汽船に日本船もせぬ(1947-25 回扣)

而揚げて來し國士にらただびを桜の咲立る聲になつ立つ(1947-26 回扣)

木屋の花

狭き家にじたいたへつて棲み廻れむ木屋咲立せ新緑を感(1948-1 ハ露|田卯)

勤めより疲れて帰る夕暮は木屋の懶むらしむもの（1948-2 回扣）

明かりつかぬ家にかへり来て木屋の懶むらしむもの（1948-3 回扣）

買ひし本賣ひし本のよひやくに一メートルばかりになつてはつ（1948-4 回扣）

畠田は何を食せむにやあむ夜ふきて廻に轟せらうじるゆひ（1948-5 回扣）

#### 志津の原

夏休みゆうじにも行かぬ児童を連れ秋草花の野に遊ばせつむ（1948-6 回扣）

子供のはホーケーなどと直ぐに並ぶ此の移り行きも駄過いじに難し（1948-7 回扣）

此の原は練兵場の跡なれば人も見なくに秋更けむとむ（1948-8 回扣）

広原の中に小さき家立つは弓揚びとの仮屋なむい（1948-9 回扣）

子らがきく草花の名をわれ知らずただ秋草と並らぐかつた（1948-10 回扣）

#### 関東水害

出水は家に到のむといたより来ぬ汽車たえしよつ懸わきねれせ（1948-11 回扣）

渡良瀬に近ければ思ひき我が家に到こし母おり水やつれしう（1948-12 回扣）

明治四二年なりきわが村もいたく水つれ船しみに立つ（1948-13 回扣）

電車より見て通る水つきし家のわまあせねむや並せむ原舟いわ並せむ（1948-14 回扣）

閘門を調節して水防ぐ國もおつこたく自然にすな世なむ国やねつ（1948-15 回扣）

#### 九十九里、東良見

打ち寄せる波の形の変り行く見つつおねねは潮は飽かなく（1948-16 ブルーパンツ歌）

拾ひ来る貝の種類も広きたれば松の林に歩みて行かむ（1948-17 回扣）

望楼は用なくなつて古から立つ光しみる外洋（1948-18 回扣）

此の浜に事やあむと驛船立つ思ひも遙く海の離土（1948-19 回扣）

#### 春の風

はつはやし母娘の団よつ訪ね来し山側の友のN女となつて（1948-20 ブルーパンツ歌）

映画館出で来つゝやうに腰となつ春かみなりのヒミツのやうに立つ（1948-21 回扣）  
 花すきて静かになれる桜十手行きつて思ふ週末にしゆのや（1948-22 回扣）  
 わが机幾どせぶりに置くならむ煙草を吸ひて夜を更かしつ（1948-23 回扣）  
 春の風瑞子立ゆかづ一ヒ田舎土じ松を置き立せ心懶ね着く（1948-24 回扣）

### 謫訪の湖ぐ

朝の飯すめば仕事につかむとやかなしほ夢をゑへぐ眠つね（1949-1 回扣）  
 信濃路はまだ寒かいむ夢科や謫訪の湖ぐをわれば思ふや（1949-2 回扣）  
 湖のくの臺にしづかく參ひぬを思ひつて題つて昭田近づけ（1949-3 回扣）  
 三七せ余りに木だび匂を嗅くて住む此處にこつまど在つて題くや（1949-4 回扣）  
 をきなはこわわかの土を耕してくわぐやの種子を播あひぬゆせ（1948-5 回扣）

### 謫訪の湯

逝きし子の昭田近づく梅脛ぐわづ心重たき音せ済つ来（1948-6 ヒルハナ十一 田叩）

### 八月一十七日謫訪行も

思ひぬしお臺ぐに来て心したし湖を貳トヘキモヘテ物語（1948-7 回扣）  
 葬つての田湖のかがやき眼に沁みし思ひかくつ来湖を貳土ねせ（1948-8 回扣）  
 葬り果てて諸共に浴みし謫訪の湯に子供をつねて今口を来立つ（1948-9 回扣）  
 豊平の追悼歌会にもわびとん攝つし跡真も失るに立つ（1948-10 田叩）

### 渡歴

バルコニー吹き入る風の涼しへトマーニの靴に黒汁をたたら（1951-1 ヒルハナギ九田叩）  
 飛行機の中にねむつて田やねねばシコアの國に朝の田原やつ（1951-2 回扣）  
 アルバスもしまひくじつて廻れしかば縁傾くベイヘの岸原（1951-3 回扣）  
 アムステルダム美術館（一九五〇年渡歴中の田舎から）  
 マンハッセニットの人揃えにはねやれしあかなやつ・トハジルコ

(一九五一・四・廿一) 「オハハタ品」 図書新聞 | 五十四)

昭和二十五年八月十一日新路第一ロッパに向かふ

たたかひの映画題はす、香港の十九の店舗を取つ (1951-5)  
街の中は印度の国も源しきつて、低く見ゆる田村螺鈿 (1951-6)

カルカッタ

スノールの過ぎしそかつ飛行場に印度の人の草刈つて廻つ (1951-7)

色黒きいの國人の親しきれねもいにわれに食をすかね (1951-8)

カルチ

夜深く降り立かれて入る休みの蝶を追ひつて、森の森を知む (1951-9)

地中海

遠れ隔せ雲かとまがるいの形跡せ平仄なれど現実につけ (1951-10)

ひるこひにマカローおればやがて着くローマの國のねむせぬかな (1951-11)

イタコトのローマの街のねだたみ坂多くて、屹聳おむせぬ (1951-12)

イタコトは松の木があつしかずかに日本松の松へ合つたがくつ (1951-13)

アルプスを越ゆ

谷あらに雪のつむれぬ山あつて、餘しき峰のつむねを取む (1951-15)

皿のトニ雪を済美しきスカイースの國の雪もおかいぬ (1951-16)

けやぬる鋭き山せマシターホーハたぬまじつて、煙のきよ土つ (1951-17)

アルプスもしまいへりつて、過徳つかば縁傾くスカイースの草原 (1951-18)

山を廻きて、高皮トがれば草原に遊ぶ、羣の動くやく見る (1951-19)

屋根あかき家まざりなるせ牧舎なるの霜々じつて、田村アリハベ (1951-20)

ローマ所見

酒を呑み肉食をかる西洋僧侶もつたる顔をつゝむつて  
何故に発心したぬ足ないむ美しき瞳に美しき瓶（1951-22）

カムボ・ティ・ハイホー

やのかみに脚が焚かれし躰の花の広場にねだせ来り立つ（1951-23）  
此れは日本あつて

豊後雜詠

田田の海見ねのゝヨの舟の内里の舟くつもと縄（1980-1 ハルハサウエア）  
大正十五年万里金集田でつとぞ覗いたかつしが船せわつ立つ（1980-2 回転）  
一ノ子ヨ今口アシモ見に立つ舟くつ船のみは知つこくにれのヨ（1980-3）  
三浦梅園帆足万里のくじなればせはれせ豊後に漂ひく眼らゆ（1980-4 回転）  
里舟は万里の幼如立つて

梅園は里舟の脇のまた脇にて一人せつらに煙おれぬふ（1980-5）

田田の海ねぬひは函たん（）の海とてふ城ト鱗せりの如祭（1980-6）  
船が家にふたたび宿りかんたんの鱗食せむとねが思せなぐ（1980-7）  
五円十三田畠降りしかば伴はれ府内の屋に本をねわつむ（1980-8 回転）  
アルメイダ遠く來つてつとめしをいの国人は書きて残れよ（1980-9 回転）  
思田せ哉田のじゆくねれや土れこべの髪立田物の歌（1980-10）

思二田

いの田のまなじこたせつめく謡歌カタマリじみの眼の田の題（1980-11）  
われ却へ謡歌解視とてふかりし詠歌詠人の文の大それ（1980-12 ハルハサウエア）  
母のため田卯活子使はせし幽外の心こくの合理解せよ（1980-13 回転）  
岐鳴山三たび來たつて今田せ見る原爆のゆめにまゆれめ（1980-14）

三浦梅園歌雪にて動搖せつ煙宿が詠む地動の詠 (1980-15 回忌)  
梅園せ一度巣鴨に来たつしが地動の詠せ一越田にあれ (1980-16)

赤水を汽車過ぐゆとも思ひ出で医蘇の心もとて観牧屋おつや (1980-17)

故庭余終つておとし涙ひつれに十廳先生正笑せね止つ (1980-18)  
思ひ出せ心の母上歌ひやの心正丑だして煙をぬるいとお (1980-19 回忌)

トマセイカイヒセイの心境を撰あたつカルネ・エカ・バル語翻の手書 (1980-20)

#### 白鸞

わが庭の水ねぬ渠正ト付かねつ田舎せあぐり飛ひ共ひ止つ (1980-21 ドルハナ田原町)  
あの鸞は水呑みに来しかね正ねいじ賣に金無をねひつ取ひ (1980-22 回忌)

空とびて渠の金無を呑ひたる鸞の賜力とやつまおどり (1980-23)  
田の暮せまなじ疲れてしづだたき植木を反ひかね正やねんや (1980-24 回忌)

十七せ前仰生正にもし思ひ出で黒生の海を唄たくなつたつ (1980-25)  
海原の遠くを見るや樂しけれまなじ体あつ鹿せぐね (1980-26)

雲と波ながめて題れば飽かずかも形や色やの輪廻おたひ (1980-27)  
一體よつ海を描かんと懇求め一人は泊ぬねいじねね止つ (1980-28)  
おひぬよつ裏合をすね海の裡にかなる人を泊ぬねいわつた (1980-29)

人廻のぬ外の浜辺に住みて波の形を記憶せよ (1980-30)

#### 田中大田千葉アーティスト歌会謡草

オリンピックせシヨーかサーカスかわれ知らホトトナイ人世正ハ歌ぬむ (1980-31)  
こほしくにオッパントの歌を走りさせ僕のメタルのため正歌 (1980-32)

右謡草のための草稿のいた一曲

此族の祭典とこらせこまだもつトモハベヌーハマハセモ煙くなつ (1980-33)

## 體感

轟にだに忘れぬ人わぬいなへりこおせの轟に轟が如昔やむも (1980-34)

### 二郎

「」の奥に浅間おぬべつれつれ轟」桂冠立つてか無理かも知れぬ (1980-35 ブルーパーマ)

落葉松の葉ふき立たつて壁の轟立小鳥の瓶や今田立轟 (1980-36 回転)

「」の壁に鳥の録画おつとこくじトーペを覗く立派の「」 (1980-37)

「」の湯に夏を覗く」やつ入浴つてすゞし時がせむつ (1980-38)

涙晴れし鬼押出の瓶の上地質をあめらおのが手と脛 (1980-39 回転)

カクヒンセイスイムなれば十手架のツバハクびと鮮ら立つ (1980-40 回転)

戦争は好む所におひよともスルタソなればおはなれカクヒン (1980-41 回転)

パンヘチナ十手軍よつ取返しマジウカなじみを作らせむ (1980-42)

マジウカは想洋なほロレジホリトマジの敵強なつ (1980-43)

スマートのタコスマノ読みしほ震災前イスイムの」とせ余つ景ふれつ (1980-44)

一九八〇年一月一六日岡山県井笠田連寺なむ田代耕館の轟立轟

戒名は歌のねじ轟るつ和が轟ひそ立くねつねの」のねせ (1981-1 ブルーパーマ)

田代耕館トロハサヒトは村松芳郎むひまつは和がふねれり立つ (1981-2 回転)

村松が田代なる」とをわれ知りず共に物理に入つて立つ (1981-3)

越人の良賀和尚をひやまひて井笠田連寺に墓を設立 (1981-5 回転)

玉島は東国よりは程遠し和がひも繁くせ来れいの (1981-6)

瀬戸の海のじかなれども水島の工業地帯はぐ焉のれれ (1981-7)

わが友の墓に語つる涙み果し和備路の秋も少し見むべか (1981-8)

秀吉が水攻めせつと如也和松城址小やかつせ (1981-9)

日本 - 鳥上郡の大島町にハメーネル (原注) が来日  
(以上入力 2000-07-21 K2)